
健康社会研究センター ニューズレター 第 18 号

2011. 12. 28 発行

◆ 目次 ◆

- 1 プレスリリース
- 2 主な研究成果発表
- 3 学会・シンポジウム・研究会等のお知らせ
- 4 その他お知らせ

1 プレスリリース

住んでいる地域の所得格差により、主観的健康感が悪い危険性が最大 1.9 倍、歯の本数が少ない危険性が最大 3.4 倍高くなる。所得格差の主観的健康感への影響を、ソーシャルキャピタルが 16%和らげる。

(2011 年 11 月 4 日)

2003 年に愛知県の 65 歳以上の健常者を対象に郵送調査を行い、3451 名のデータを用いて、どのような人が主観的健康感が悪く、歯の本数が少ない(19 本以下)かを調べた。その結果、地域の所得格差が大きい地域に住む人は、主観的健康感が悪く、歯の本数が少なかった。特に、歯の本数でその傾向が強かった。地域のソーシャルキャピタルは、所得格差と主観的健康の関係性を 16%だけ緩和した。

詳細はこちら→http://square.umin.ac.jp/ages/press-releases/11_005.pdf

対面交流のみが乏しい高齢者であっても 1.4 倍程度要介護・死亡リスクが高い可能性あり

(2011 年 11 月 4 日)

愛知県の 6 自治体で 2003 年に、健康な 65 歳以上の高齢者を対象に郵送調査を行い、その後 4 年間にわたって要介護および死亡に至ったかを追跡した。年齢や治療疾患の有無などに関わらず、対面交流も非対面交流も乏しい孤立者だけでなく、対面交流のみが乏しい(電話等による交流はある)高齢者であっても、その後、約 1.4 倍要介護に、約 1.5 倍死亡に至りやすいことが明らかにされた。そのうえで、全国高齢者に対して推計したところ、対面交流のみが乏しいことによって、年間 0.8 万人程度の高齢者が要介護に、1.6 万人程度の高齢者が死亡に至っている可能性があることが示唆された。

詳細はこちら→http://square.umin.ac.jp/ages/press-releases/11_004.pdf

2 主な研究成果発表

<論文>

- ① Akihiro Nishi, Ichiro Kawachi, Kokoro Shirai, Hiroshi Hirai, Seungwon Jeong, Katsunori Kondo: Sex/gender and socioeconomic differences in the predictive ability of self-rated health for mortality. PLoS ONE (in press)
- ② Tatsuo Yamamoto, Katsunori Kondo, Hiroshi Hirai, Miyo Nakade, Jun Aida, Yukio Hirata: Association between self-reported dental health status and onset of dementia: AGES project 4-year prospective cohort study of older Japanese. Psychosomatic Medicine (in press)
- ③ 鈴木佳代: 米国の未婚のシングルマザーに関するディスコースとその反証 ; Promises I Can Keep (2005) が示唆するもの. 教育福祉研究 (17) : 51-64, 2011. 11

<学会発表>

- ① Shirai K, Kawachi I, Nishi A, Ojima T, Tsuboi H, Imai H, Hirai H, Kondo K: Association between subjective happiness and the loss of healthy life expectancy in Japan: The AGES Study American Public Health Association, 139th Annual Meeting, Washington DC, Oct, 2011
- ② 近藤克則: シンポジウム 2 こころの健康の社会的決定要因と自殺対策—J-AGES/ベンチマークをもとに. 第 70 回日本公衆衛生学会学術総会, 2011. 10. 20, 秋田 (59)
- ③ 竹田徳則: 地域高齢者の「認知症を伴う要介護認定発生」リスクスコア: AGES コホート. 第 70 回日本公衆衛生学会学術総会, 2011. 10. 19, 秋田 (122)
- ④ 近藤尚己: 所得の相対的剥奪とがん・循環器疾患・総死因による死亡: AGES コホート. 第 70 回日本公衆衛生学会学術総会, 2011. 10. 20, 秋田 (126)
- ⑤ 竹内研時: 高齢者における社会参加と口腔の主観的健康度の関連. 第 70 回日本公衆衛生学会学術総会, 2011. 10. 20, 秋田 (342)
- ⑥ 徳本史郎: 一人暮らし高齢者における死亡及び要介護認定に関連するリスク因子: AGES コホート. 第 70 回日本公衆衛生学会学術総会, 2011. 10. 19, 秋田 (119)
- ⑦ 柴田陽介: 自治体間で外出頻度に格差はあるのか?: J-AGES プロジェクト. 第 70 回日本公衆衛生学会学術総会, 2011. 10. 19, 秋田 (119)
- ⑧ 山田実: 転倒が少ない市町村はあるか: AGES プロジェクト. 第 70 回日本公衆衛生学会学術総会, 2011. 10. 19, 秋田 (121)
- ⑨ 金森悟: スポーツ組織に参加することは介護予防に効果的?: AGES コホート研究. 第 70 回日本公衆衛生学会学術総会, 2011. 10. 19, 秋田 (122)
- ⑩ 今井久: 高齢期における配偶者との死別経験が幸福度に及ぼす影響: AGES プロジェクト. 第 70 回日本公衆衛生学会学術総会, 2011. 10. 21, 秋田 (124)
- ⑪ 小久保まや: 介護をしている高齢者の死亡・要介護リスクと健康保持因子: AGES コホート研究. 第 70 回日本公衆衛生学会学術総会, 2011. 10. 21, 秋田 (124)
- ⑫ 斉藤雅茂: 高齢者の社会的孤立と健康余命; 交流形態の相違と生活満足度の高い孤立. 第 70 回日本公衆衛生学会学術総会, 2011. 10. 20, 秋田 (126)
- ⑬ 三澤仁平: うつ発生の背景因子の解明—AGES パネルデータから見えるもの. 第 70 回日本公衆衛生学会学術総会, 2011. 10. 21, 秋田 (129)
- ⑭ 藤野善久: 幼保一元化に関する健康影響評価. 第 70 回日本公衆衛生学会学術総会, 2011. 10. 19, 秋田 (118)
- ⑮ 竹内学: 結婚相談所数, 婚姻率と自殺の関連. 第 70 回日本公衆衛生学会学術総会, 2011. 10. 21, 秋田 (365)

<講演等>

- ① 平井寛: 高齢者の「閉じこもり」の環境要因の研究と地域における予防に向けた実践. 日本公衆衛生学会奨励賞受賞講演, 第 70 回日本公衆衛生学会総会, 2011. 10. 20, 秋田
- ② 近藤克則: 医療・介護保険制度改革とリハビリテーション医学医療の課題. (教育研修講演) リハビリテーション合同研究大会くまもと 2011, 2011. 10. 28
- ③ 近藤克則: (シンポジストとして). 地域医療研究医会全国大会 2011 in 高知, 2011. 10. 29
- ④ 近藤克則: 格差社会における健康とストレス—社会疫学の視点から. 第 27 回日本ストレス学会学術総会, 2011. 11. 19, 東京.

<マスコミでのコメントなど>

- ・「原因の探索強化を」日本公衆衛生学会 2 日目・自殺対策で意見交換. 秋田さきがけ, 2011 年 10 月 21 日 (金)
- ・近藤克則: 医療保険改革「隠れた財源」の活用を. 朝日新聞, 2011 年 11 月 17 日 (木)

3 学会・シンポジウム・研究会等のお知らせ

1) [第 22 回日本疫学会学術総会](#)

【テーマ】「社会のニーズに応える疫学」

【会 期】2012 年 1 月 26 日 (木) ~ 28 日 (土)

【会 場】学術総合センター・一橋記念講堂

【内 容】パネルディスカッション「市民が求める疫学とは」(27 日)

シンポジウム 1 “Development of Clinical Epidemiology Network in East Asia” (28 日)

シンポジウム 2 「社会に貢献する疫学を目指して」(28 日)

2) 介護予防 WG (JAGES)・AGES 研究会今後の予定 ※変更になることがあります.

- ・1 月 (国際ワークショップ)

【日 時】2012 年 1 月 8 日 (日)

【場 所】日本福祉大学名古屋キャンパス 7B

- ・1 月研究会

【日 時】1 月 9 日 (月)

【場 所】日本福祉大学名古屋キャンパス 7B

- ・2 月研究会

【日 時】2 月 19 日 (日)

【場 所】日本福祉大学名古屋キャンパス 7B (予定)

- ・3 月研究会

【日 時】3 月 4 日 (日)

【場 所】日本福祉大学名古屋キャンパス 7B (予定)

4 その他お知らせ

- ・第 88 回市町村セミナー (2011 年 11 月 25 日開催, 厚生労働省老健局老人保健課担当) で「地方自治体の先駆的な取組例紹介」として, 武豊町におけるプロジェクトが紹介されました.

http://www.mhlw.go.jp/bunya/shakaihosho/seminar/02_88.html

http://www.mhlw.go.jp/bunya/shakaihosho/seminar/dl/02_88-24.pdf

(以下再掲)

- ・日本学術会議が, 提言「わが国の健康の社会格差の現状理解とその改善に向けて」を発表しました.

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-t133-7.pdf>

- ・日本公衆衛生学会公衆衛生モニタリング・レポート委員会が, 「高齢者における健康の社会格差」を提言しました. (2011 年 7 月号)

<http://www.jsph.jp/member/docs/magazine/2011/7/58-7-564.pdf>

日本福祉大学
健康社会研究センター
<http://cws.umin.jp/>



名古屋市中区千代田 5 - 22 - 35
名古屋キャンパス北館 7 階
[Tel:052-242-3074](tel:052-242-3074)
Fax:052-242-3076

<お知らせ> (再)

「健康社会研究センターのホームページの「リンク」のページ <http://cws.umin.jp/link.html> の中に、「健康の社会的決定要因や介護予防の関連論文」コーナーを作りました。リンクすべき論文などの書誌情報と URL をお知らせ下さい。

ニューズレター第 18 号の発行にご協力いただきましてありがとうございました。

今後とも当センターへのご支援をよろしくお願い申し上げます。

メーリングリストの配信の停止をご希望の方・ご意見・お問い合わせはこちら <k-manami@n-fukushi.ac.jp> (泉) > までお知らせください (ご連絡の際は*を@に変更して下さい)。

ニューズレターのバックナンバーはこちら <[バックナンバー](#)>

発行元：健康社会研究センター <http://cws.umin.jp/>

(このメールは、国際シンポジウム「健康の社会的決定要因－社会疫学の可能性」(2009 年 3 月 14 日開催)にてメール登録をご希望いただいた方及びメーリングリスト web 登録をいただいた方に配信しています)